

報 告

## 第30回医学情報サービス研究大会 参加記

畑 美之

2013年7月6、7日に沖縄で開催された第30回医学情報サービス大会に(MIS30)に参加しました。出発日は快晴で、伊丹から沖縄へ向かいました。一人では心細かったため、事務局長の増田さん(藍野大学)と関西労災病院の寺澤さんと一緒にさせていただきました。沖縄についてとたんあつくてあつくてあつかったです。

1日目で印象に残ったのは、基調講演の「中国文化と琉球社会」でした。講師の赤嶺守さん(琉球大学法文学部教授)のお話では、沖縄が古くから中国文化の影響を色濃くうけていることについて、実際の事例を示してご説明いただきました。

また、ポスターセッションでは、荒木亜紀子さん(川崎市立井田病院図書室)による「医療者側からみた病院図書室と司書の必要性」の発表がありました。「司書の必要性」というのは利用者側の意見です。司書として業務をする中で利用者からそう思ってもらえるよう努力することは大切だなあと、ちらと自分の背中をふりかえりたい気持ちになりました。

2日目は、松村悠子さん(長崎大学附属図書館)の「長崎医科大学附属図書館における原爆の被害と復興」という発表が印象に残りました。当時の図書館員の家族の方の日記や、長崎医科大学図書館がChina Medical Boardなどの援助をうけて再興されていく様子を写真などで説明いただき、胸が詰まる思いがしました。忘れてはいけない事、残されるべき事だと思いました。

研修会に参加させていただくと、まわりは同

じ仕事をされている方々で、その雰囲気の中にあるのはすごく刺激をうけます。自分もがんばらねばという気持ちになります。

今回は当協議会が発行している書籍の販売もお手伝いいただきましたが、あまり所定位置に待機する時間が少なく申し訳ありませんでした。

初日の基調講演のお話を伺って是非行かねばと思い立った首里城の「瑞泉」に行ってきました。前に立つとひんやりとし、なんだか違う世界の入り口を感じました。

沖縄には私が好きなものがたくさんあります。色鮮やかな紅型の振袖や家々を守るシーサーや飛行機からみえる透明度の高い海、これらを見ると凝り固まった気持ちが緩んでいくのが感じられます。

また今回、移動中のタクシーの運転手さんから素敵なお話を聞きました。運転手さんのお名前の中に代々引き継がれている文字があり、それは先祖が中国人から習得した象嵌細工の職人であったことをあらわす文字とのことです。文字は職業を示すとともに家系もあらわすのだなと感じました。

両日とも天候に恵まれ、会場では当協議会からの参加者ともお会いできました、今回の参加に際しては、同行者の方に特にご高配いただき、飛行機の切符から宿泊、移動のタクシー料金などの費用を一切まとめていただき、なおかつ飛行機内では上昇時にうづくまる私(怖いので)を慰めていただきました。おかげさまで快適に過ごすことができました。

振り返ると楽しいことばかりでした。この場をお借りして謝意を表します。